

キャン・グループ  
フランシス・フォード・コッポラ提供  
ミック・ロック、フェイ・ダナウェイ  
ゴラン・グロバス・プロダクション  
バルベツ・シュローダー・フィルム  
"バーフライ"アリス・クリッジ  
J.C.クイン、フランク・スタローン

ミック・ロック + フェイ・ダナウェイ

# BAREFLY

バーフライ

共同製作: ジャック・バラン  
編集: エバ・ガードス  
撮影: ロビー・ミュラー  
総指揮: メナヘム・ゴラン  
ヨラム・グロバス  
脚本: チャールズ・ブコウスキー  
製作: バルベツ・シュローダー  
フレッド・ロース、トム・ラディ  
監督: バルベツ・シュローダー  
CANNON  
REGISTRATION  
キャン映画作品  
DISTRIBUTED BY WARNER BROS.  
A WARNER COMMUNICATIONS COMPANY  
ワーナー・ブラザーズ映画配給



この愛はきらめきの狂気、そして酔い痴れる日々——。



# BARFLY

## 解説 ■ INTRODUCTION

今やドル箱スターの域に到達したミックキー・ロークが、また新たなラブストーリーにチャレンジした!

小市民的な生ぬるい生活に背をむける男、ヘンリー。人間に失望し嫌悪さえ抱く孤独な女、ワンダ。彼等はアメリカ社会に浸透している生き方にドップリとつかりながら、同時にここから逃げ出そうともがく。月曜日から金曜日までのオフィス・ワーク、車のローンや生命保険、就職、解雇も。二人は人間が存在し続ける上での恐怖と正面から対立し、すべてに忍従するような死せる人生を堅く拒絶する。石にかじりついても自分自身であり続けるよとする悲痛なまでの望みを、勇気ある狂気で浮き彫りにした一風変わったラブストーリーだ。

主演のミックキー・ロークは「ランブル・フィッシュ」「ダイナー」「イヤー・オブ・ザ・ドラゴン」「ナインハーフ」「エンジェル・ハート」とスターダムを駆け登り、映画界にゆるぎない地位を築き、最も脂の乗りきった男優の呼び声が高い。対するフェイ・ダナウェイは『ネットワーク』でアカデミー賞主演女優を獲得した、ベテラン演技派である。監督はバルベット・シュローダー。脚本は



チャールズ・ブコウスキーで、彼の若かりし頃の体験をベースにしている。提供はフランス・F・コッポラ。

## 物語 ■ STORY

ロスの下町の酒場、ゴールデン・ホーン(黄金の角)。くつろぎの場所とはほど遠い、この場末のバーには様々な人間がたむろしている。感性の鋭い若き作家、ヘンリー・チナスキー(ミックキー・ローク)もその中の一人。彼は社会の歯車に組み込まれるのを拒んで酒に明け暮れ、気がむけばベンを走らせる。短気な夜勤のバーテンのエディ(フランク・スタローン)、寛容で心優しい昼間のバーテンのジム(J.C.クイン)、枯れ果てた化石のような女リリー、男とみれば誘惑するジャンニス(サンディ・マーチン)等々。強烈で浮世離れした客の人間模様はヘンリーにとって日々の糧であり、彼は外の世界を拒否する一方で、この世界をリアルな現実として素直に受け入れるのである。

「安心しな、今まで俺を愛した女なんていやしない」現実と幻想の世界を泳ぐヘンリーはワンダ・ウイルコックス(フェイ・ダナウェイ)と出会う。彼女はインテリゆえに人生に幻滅を抱き人間を嫌悪さえして、生きる目的さえ失っている孤独な女である。恋とは無縁の人生と決めこんでいる男と女、やがて二人は酒ビンを取り持つ縁で恋に陥る。アルコールだけを友とし愛もなく寂しく生きてきた彼等は愛を怖れ、愛することで生じる痛みも怖れていた。時にはお互いに妥協したり、まるでハートにナイフを突き立てるように傷つけ合いながらも、ともかく二人は初めて他人と人生を別ち合うのだった。ところが口ヒゲを生やした謎の男(ジャック・ナンス)の出現によって、二人の関係が突然破られた……。



## 高貴な野蠻人ミックキー・ローク

ミックキー・ロークの肉体を借りて演じられるヘンリーという男には、見る者の心を奪わずにはおかないなにかがある。彼は、アルコールで身を滅ぼすのと引き換えに見事な作品を残した多くの芸術家たちのように、飲んだくれの仮面の下に輝やける才能を隠しているのかもしれない。傲慢という名の固い殻で、傷つきやすく、やさしすぎる心を守ろうとしているのかもしれない。彼を見てみると、そんな想いがどんどん浮かんでくる。

作家で詩人でもあるチャールズ・ブコウスキーが、ヘンリー像にみずからの過去を重ねあわせて脚本を書いた「バーフライ」は、ヘンリー役にミックキー・ロークというユニークな個性を持った俳優を得たことで、素晴らしい魅力的な映画になってしまった。そして、高貴な野蠻人とでも呼んでみたいヘンリーを演じて、ミックキー・ロークは、ついに彼の代表作として記憶される作品を放ったのだ。

渡辺祥子

# 4月29日(祝)よりロードショー

特別鑑賞券 ¥1200 (当日一般1500円/学生1300円の処) 発売中!

地下鉄東銀座下車・松竹セントラル横

## 松竹シネサロン (541) 2716

連日 11:10 1:10 3:10 5:10 7:10